

研究主題 歴史教育教材としての風刺画の研究
～主題を読み解く視点を中心に～

要約：歴史教育で扱う風刺画は、学習者に対し歴史事象、特に政治への関心をもたせるための優れた教材となる。小学校6年社会科での日本の歴史、中学校社会科歴史的分野での日本史を中心とした歴史、高等学校での必修科目世界史や選択科目日本史という学習過程において、児童生徒は授業の主教材である教科書に掲載された資料だけでも、実に多くの風刺画を目にすることになる。このことは風刺画に歴史教育教材としての資料的価値が認められており、学習効果が期待されていることの現れといえよう。本研究は、風刺画の教材としての価値を明らかにするとともに、描かれた内容を読み解く方法を探求したものである。

キーワード：風刺画、資料的価値、読み解き、三つの視点、対比、象徴、文字

I 研究の目的

本研究は、歴史教育における絵画資料の一つである風刺画の教材としての価値を明らかにし、学習者が描かれた内容を理解できるための効果的な見方を探ることを目的とする。

II 問題の所在

風刺画は表現法の特徴として事実と虚構の両面を併せもつことから、歴史を理解する資料としての取り扱いには注意が必要である。このような特徴を持つ風刺画は、教材としてどのような価値を持つのか。風刺画を教材として授業で用いるには、その有用性を明らかにしなければならない。

また、風刺画を授業で用いる際には、その内容を理解する方法としての問題がある。つまり、描かれた内容に事実と虚構の両面を併せもつ風刺画から、それらを区別した上でいかに作者のメッセージを読み取るかということである。そのためには、風刺画の内容を理解するための見方が必要となる。

III 論文の構成

- 序 章
- 第1章 歴史教育教材としての風刺画
 - 第1節 風刺画の概念
 - 第2節 歴史授業における風刺画活用の意義

- 第3節 近代史を説明する資料としての風刺画
- 第4節 教科書及び指導書における風刺画活用のねらい
- 第2章 歴史授業における風刺画活用の実態と課題
 - 第1節 風刺画を活用した授業の実態
 - 第2節 授業事例にみる風刺画の活用法
 - 第3節 風刺画を活用した授業の課題
- 第3章 風刺画の主題を読み解くための視点
 - 第1節 先行研究にみる風刺画の読み解きの視点
 - 第2節 風刺画を読み解く三つの視点
 - 第3節 風刺画の主題を読み解く方法
- 第4章 実験授業による読み解きの視点の検証
 - 第1節 仮説及び授業の構成
 - 第2節 実験授業の結果にみる読み解きの視点の効果
- 第5章 読み解きの効果を高める改善案
 - 第1節 実験授業を通しての課題
 - 第2節 読み解きの効果を高める三つの視点の見直し
 - 第3節 読み解きの効果を高める授業展開の工夫
- 終 章

IV 研究の概要

- 1. 歴史教育教材としての風刺画
 - (1) 歴史授業における風刺画活用の意義
- 先行研究をもとに風刺画の概念を整理すると、

その定義は「人間の行為を批判・嘲笑するために、ユーモアを加味し簡略化と誇張で表現した一枚の絵」とまとめることができる。

そして、風刺画の資料的価値は、次の4つの点にある。

- ① 多様な歴史の見方につながる
- ② 学習者の興味関心を喚起できる
- ③ 複雑な歴史事象を要領よく理解できる
- ④ 政治関連の資料が豊富である

さらに、風刺画が内容に虚構の部分を含むことを前提として捉えることにより、次のような教材としての価値が明らかとなる。それは歴史的事実を理解するためのものとして単に描かれたことを読み取るといった受け身の姿勢では済まないということである。事実と虚構の部分を見極めるためには、時代背景の確認といった客観的な事実を知る必要性が生じ、学習者の資料に対する積極的な関わりを求めるということである。さらに、風刺画の読み解きで重要なことは、誇張表現や比喩表現といった部分的な解釈に終始することなく、最終的には作者が伝えたいメッセージ（作品の主題「風刺の対象とその行為」）を理解することである。虚構の部分を含めてまで伝えなかったことは何だったのか、という作者の意図を考えることは、受動的な見方ではなく能動的な見方をすることであり、ひいては歴史を理解する上で学習者の主体的な取り組みの姿勢を育てることになる。この点が風刺画のもつ教材としての価値であり、授業で用いることの意義でもある。

(2) 近代史を説明する資料としての風刺画

戦後発行の歴史教科書に掲載された風刺画を、量的な変遷や内容の傾向から分析した。その結果、風刺画は近代史を説明する資料として採用され、その内容は国内の政治状況や国際情勢を中心とする題材に集中していることが確認できた。また、掲載数も増加傾向にあり、風刺画は近代史の学習を補う重要な資料として位置づけられている。この理由として以下の3点が考えられる。

- ① 近代は写真というメディアが現在ほど普及しておらず、当時の事象を視覚で伝える媒体としては、資料として多く残る絵画を使うことが自然であること。

- ② この時期が風刺画の興隆期であり、日本でも風刺画を掲載した新聞や漫画雑誌が数多く刊行されたため資料が豊富であること。
- ③ 近代以降の学習では、日本国内のみならず日本をとりまく複雑な国際情勢を捉える上で、歴史事象の内容を焦点化し簡略して表現した風刺画が効果的ということである。

2. 歴史授業における風刺画活用の実態と課題

教科書やその指導書における風刺画の掲載状況や記述内容を分析すると、それらは風刺画を授業の導入で学習者に内容を自由に読み解かせることや、時代状況を説明するための解説画として用いることを意図してあることがわかる。

また、授業実践記録における風刺画の内容を読み取る方法としては、次の二つの傾向が確認できる。一つは、授業の導入で風刺画を提示し、学習者の気づきや疑問をもとに授業を展開していく方法であり、もう一つは、指導者が指定した絵の部分を読み取らせる方法である。

【表1】歴史授業における風刺画の取り扱いの傾向

教科書, 指導書	授業事例
・ 感想や疑問など内容を自由に読み取る	・ 感想や疑問など内容を自由に読み取る
・ 時代状況を説明する	・ 指導者が指定する絵の部分を読み取る

ここからは、風刺画活用の課題として、どの風刺画にも汎用可能な読み解きの視点を提案したものがないことが指摘できる。つまり、風刺画をこのように見ればよいという認識がないために、風刺画の内容を読み取る方法としては、学習者に自由に読み取らせたり、指導者が指定する絵の固有の部分を読み取らせたりするという傾向になるということである。

3. 風刺画の主題を読み解くための視点

風刺画が読者のステレオタイプの見方に訴えるという特性をもつことから、その表現法を分析することで逆に読み手の立場から読み解きの視点として利用できると考えた。そして、風刺画の内容を理解するための効果的な見方として、読み解きの三つの視点を提示した。【表2,3 図4】。

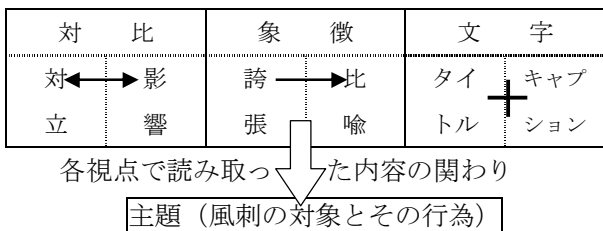
【表2】風刺画を読み解く三つの視点の意味

対比	二つのものの性格や動きの違いが比較できる描写
象徴	目に見えない事を目に見える物に例えた描写
文字	絵の他に情報として書き込まれた文字

【表3】読み解きの三つの視点の構造

対比	対立	利害が対立する二つのものを対照的に配置した構図
	影響	二つのものの関係が影響を与える側と影響を受ける側という構図
象徴	誇張	大げさなもの、目立つもの
	比喩	架空の場面設定と意味をもつ存在として描かれた物や人
文字	タイトル	作品の内容を表す題名
	キャプション	作品の一部として画中や脇に書かれた説明としての文字

【図4】主題を読み解く三つの視点の構造図



対比…関係が対立か、又は(←→)、影響かを区別する。
 象徴…誇張表現をさがし、次に(→)、それが何を意味するのか判断する。
 文字…タイトルもキャプションも、両方とも(+), 読み取る。

4. 実験授業による読み解きの視点の検証

(1) 授業の概要

従来の風刺画を読み解く実践では、授業の導入で学習者に風刺画を自由に読み取らせるものが主流であった。実験授業では導入で風刺画を提示し、内容を自由に読み解かせる場合と、三つの視点を与え風刺画を読み解かせる場合とを設定し、どちらが主題にせまる読み解きが可能であるのかを比較した。

(2) 実験授業を通しての成果

① 読み解きの視点を与えたことにより、描かれ

たものの表面的な確認や疑問の提示にとどまることなく積極的な解釈をした記述がみられ、主題にせまる可能性が高い。

② 読み解きの視点では、「対比」と「文字」の意味が学習者にとって理解しやすく活用度も高い。

③ 風刺画を読み解く回数をこなすことで読み解きの視点の意味をより理解し、また、活用の仕方についても要領を得ている。

①については、授業の導入時において読み解きの視点を与えた場合と、視点を与えず自由に読み取らせた場合とでは、主題への到達率に明確な差が現れた。ワークシートの内容を比べても、自由に読み取らせた方は主題について無回答の割合が多く、読み解きの視点があることは風刺画を理解する上で効果があることが確認できた。

②については、ワークシートの分析から活用度も高く、読み解きの視点として効果があったことが確認できた。

③については、2回の授業を終えた学習者のアンケートの記述からは、回数を重ねるほど三つの視点を使った風刺画の読み解きの方法の要領を得ている様子がわかる。読み解きの視点を使うことに否定的な記述はみられず、むしろ風刺画の一つの見方を知ったことの満足感を記述した内容が多い。

5. 読み解きの効果を高める改善案

(1) 実験授業を通しての課題

① 読み解きの視点では、「象徴」の意味が学習者にとって理解が困難であり活用度も低い。

② 風刺画を実際の場面を描写したものと考えている学習者がおり、比喩的な表現をそのまま事実として解釈してしまう場合がある。

①については、学習者が「象徴」を「見えないことを目に見えるかたちで例えて表現してあり、その部分の多くが誇張して描いてある」という捉え方まではできているものと思われる。読み解きに当たっては、ステレオタイプの表現の解釈がポイントになるわけであるが、ここで生活経験や世の中の事象に関する知識量の差が解釈の出来不出来に影響を及ぼしたとみられる。実験授業の対象である中学生にとっては、年齢的に象徴表現の

解釈に困難な点があったといえる。ただし、風刺画には誇張表現や比喻表現が多く用いられており、これらは作品を構成する重要な要素でもある。「象徴」を読み解きの視点から外すという方向ではなく、より使えるものとして検討する。

②については、風刺画の正しい認識として、風刺画が事実をもとに作成してあるとはいえ、その表現方法は作者が内容を伝えやすく、またおもしろくするために加工したものであり、必ずしもありのままを描いたものではないことを理解させる必要がある。

(2) 読み解きの効果を高めるための視点の見直し

【表5】読み解きの効果を高める視点の改善案

視点	課題	改善案
対比	より明確な対比の捉え方	対比の関係を矢印で絵に記入する
象徴	象徴の概念の理解	特に解釈が容易な人物の表情や身ぶりに着目する
文字	文字に関する情報の与え方	難語句や外国語の訳文は説明する

(3) 授業展開の工夫

【表6】読み解きの効果を高める授業展開の改善案

展開	課題	改善案
導入	描写を事実と受けとめるといふ風刺画の誤認の可能性	風刺画の特質を説明する（特に比喻としての架空の場面設定について）
展開	指導者による視点の意味・使い方の一方的な説明	学習者の理解の程度を正確に把握する（質問に対する反応や作業状況から）
まとめ	学習者が読み取った内容を検討する機会の未設定	個人の読み解きの作業後、学習者による情報交換と指導者による解説の機会を設ける（風刺画を見る目を養う）

V 研究の成果と課題

1. 研究の成果

風刺画は史料批判の立場からすると、事実と虚

構の両面を併せもつという問題点を含む。しかし、風刺画には、学習者が事実と虚構の部分を見分けること、さらに作者の意図を理解する必要があることから、積極的な読み取りの姿勢が期待できるという点で教材としての価値があることを指摘した。

また、風刺画の内容を理解する方法としては、従来の授業に多い自由な読み取りや、絵の大切な部分を指導者が指定するというものではなく、学習者が読み解きの視点を活用して主題を理解するという手順を示した。両者の違いは、風刺画の大切な部分を直接的に問うのか、あるいは間接的に問うのかという点にある。後者には、学習者に資料を読み解く技術を身につけさせるというねらいがあり、また、他の風刺画の読み解きにも応用可能な利点がある。その効果は、三つの読み解きの視点として実験授業による検証を通して確認できた。

2. 今後の課題

(1) 継続した読み解きの視点の効果の検証

読み解きの効果を高める改善案は、実践を通して検証することで、それらが不変のものとしてではなく、より有効な視点の開発や授業展開の工夫につながる。三つの視点は、あくまで現時点で効果があると判断したものであり、研究の通過点である。また、それらは技能としての定着の問題もある。学習効果は継続して現れてくることもあるため、適切な時点で評価しなければならず、この点についても検討が必要である。

(2) 学習資料としての活用範囲の可能性

本来、風刺画は当時のリアルタイムの出来事を題材として発表してきたものであり、その意味で極めて現代的である。風刺画は過去の史料としてだけではなく、現代においても政治漫画として存在し続けている。社会科としてみた場合、歴史学習のみならず公民的分野（あるいは地理的分野）での活用も視野に入れることが可能である。三つの読み解きの視点の活用も決して歴史学習の枠に限定されるものではない。歴史学習の枠を越えた風刺画の活用法も追求することで、より風刺画を活用することの資料的価値や、効果的な読み解きの視点への示唆が得られることも考えられる。